

令和6年度「南城市幼児教育の質向上強化事業」活動記録簿

幼児教育アドバイザー	大城 美恵子	実施場所	南城市役所 215 会議室
実施日時	5 月 15 日(水)		
事業の名称	5 園研修会(大里こども園、玉城こども園、佐敷こども園、知念こども園、久高幼稚園) 希望参加園：6 園(松の実こども園、南城みなみ保育園、おおごと保育園、輝咲保育園、むぎの子共同保育園、おひさま保育園)		
参加者	保育施設：20 名 行政：6 名 合計 26 名		

1 内容 ≪5 園研修会≫

(1) 講話「幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫について」

○ 遊びこむとは

没頭している状態、集中している状態。その子ども達ならではの発想によって遊びが展開持続している過程にある状態。遊びの素材を使いこなし、わが物としていく状況。

○ 遊びこむために大切にしたいこと

- ・子どもたちが主体的に遊ぶことができる環境とそれを支える保育者の援助。子どもの興味や関心に基づいた意図的・計画的な環境構成

- ・実態に応じた援助や保育の振り返りを行い保育の改善へ

○ まとめ

- ・こども理解に基づいた環境構成(興味・関心・育ちを捉える)
- ・子どもの思いに寄り添った援助を大切に。
- ・遊びの時間を保障(自発的な遊びが学習ということを忘れない)
- ・計画・実践そして保育を振り返り、改善することを忘れない。

自分の記録を大切に。謙虚さを忘れず、チーム〇〇園で保育者も楽しい園生活を！

○ 研修のまとめ方(テーマ設定の理由・記録の方法・マネジメントサイクル)

- ・日々の保育で困ったことをどのように改善していきたいか明確にする。
- ・どんなことをしたら課題が解決できるか、手立てを考える。
- ・課題解決のために考えた方法を実践し、記録をする。記録が大切。
- ・実践前の姿と実践の内容、振り返り、反省・評価・改善⇒実践



2 成果(アンケートより)

○3 年目になる研修テーマ「遊びこむための環境の構成や援助の工夫について」を実現するためには、やはり子どもの理解（何が楽しいのか、何を実現したいのか、何が育とうとしているのかなど）がとても大切だと再確認できました。

○遊びを中心とした保育へ切り替えていくうちに、保育者が読み取る力、記録する力が付いてきた。保育日誌に自分の言葉で記録する力が付き、わくわくしながら読んでいる(園長)。その日の保育情景が思い浮かぶ記録を全職員ができるよう園内研修で学び合いチームで取り組んでいきたいです。



